

ウールの草木染に挑戦してみよう！【夏～初秋】

夏になり、太陽の光を十分に浴びて成長した植物は、染色に適した時期を迎えます。夏から初秋に染めるとよいのが、庭木のドウダンツツジ、ビワ、コバノガマズミ（ガマズミ）です。また畑で栽培したコブナグサ、道ばたや河原などで見かけるヤブマオ、メマツヨイグサ（マツヨイグサ）、なども挙げられます。さらに入手が簡単なものとしては、タマネギの皮やチャノキ（紅茶の出し殻）もよいです。

ウールの草木染は無媒染でもよい色が染まりますが、さらに先媒染を行えば、同じ植物から異なる色が染まるのが魅力です。染色時期が少し違っただけでも同じ色に染まらないこともあります。ここでは染色見本を付けていますが、多少の色の差は気にせずに挑戦してみてください。



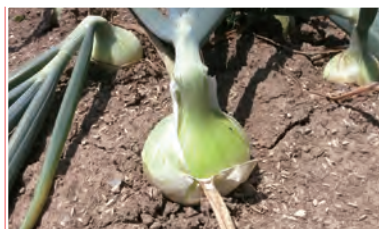
●草木染のことをもっと知りたい
やってみたい人にオススメ！

草木染ハンドブック ～ウール染の植物図鑑

野山で見られる草木から、台所にある野菜、店で購入できる染料まで、身近で入手しやすい素材100種の草木染の図鑑。掲載全種で絹とウールの染色見本を掲載。素材の採集に役立つ情報や、染色方法の解説も写真付きでわかりやすい。

山崎和樹・著 新書判 128ページ
定価（本体1,600円＋税）
ISBN978-4-8299-8129-0

★夏～初秋に草木染を楽しめる染料 ※染色見本は明ばん媒染。ほかの媒染法の見本はハンドブックに掲載しています



タマネギ

野菜として市販されている。
採集：外皮を原毛と同量
色（媒染法）：黄褐色（明ばん）
茶褐色（おはぐろ）



チャノキ（紅茶）

嗜好品として市販されている。
採集：冷凍の出し殻を原毛の5倍
色（媒染法）：薄茶（明ばん）
薄い茶褐色（おはぐろ）



ドウダンツツジ

庭木として植えられている。
採集：葉や枝を原毛の5倍
色（媒染法）：黄赤みの茶（明ばん）
茶褐色（おはぐろ）



ビワ

庭木として植えられている。
採集：葉や枝を原毛の5倍
色（媒染法）：黄赤みの茶（明ばん）
茶褐色（おはぐろ）



メマツヨイグサ
（マツヨイグサ）

河原に生えている。
採集：花、葉、枝を原毛の5倍
色（媒染法）：茶味の薄い黄色（明ばん）
紫みの鼠色（おはぐろ）



コバノガマズミ
（ガマズミ）

庭木として植えられている。
採集：葉や枝を原毛の5倍
色（媒染法）：黄赤みの茶（明ばん）
茶褐色（おはぐろ）



コブナグサ

畑で栽培されている。
採集：生の葉を原毛の3倍
色（媒染法）：黄色（明ばん）
緑褐色（おはぐろ）



ヤブマオ

道ばたに生えている。
採集：葉や枝を原毛の5倍
色（媒染法）：黄みの赤茶（明ばん）
紫みの鼠色（おはぐろ）

草木染ハンドブック ウール染の植物図鑑

注文

冊

お名前：

ご住所：〒

お電話番号：

貴店印

※弊社営業部へご注文いただいた場合、本体価格の合計金額が3,000円以下は郵便・銀行振込用紙でのお支払い（送料210円と払込手数料をご負担いただく）、3,000円以上は代金引換でのお支払いとなります（代金引換手数料は本体価格の合計金額10,000円以下が324円、以上が432円）。

文一総合出版 営業部

〒162-0812 東京都新宿区西五軒町2番地5号 川上ビル
Tel：03-3235-7341 Fax：03-3269-1402 HP：http://www.bun-ichi.co.jp/

STEP① 原毛の前処理



① 原毛をザルに入れ、モノゲンなどの中性洗剤を規定量加えた湯5L(約40℃)に10分浸す



② ザルに入れたまま2回湯洗いを。押し洗いや手で絞らないこと

STEP② 明ばん先媒染(原毛20gの場合)



① 湯500mlに酒石英0.4g(2.5mlの計量スプーン半分;原毛の重さの2%)を入れ、透明になるまで加熱して溶かす



② ①に焼明ばん1.2g(計量スプーン5ml山盛り1杯;原毛の重さの6%)を加え、透明になるまで加熱

★媒染(ばいせん)とは?

草木染の場合、ほとんどの染料が「媒染剤」を必要とします。媒染剤とは染料と繊維を仲立ちして、染料が繊維に付きやすくする物質のことです。ここでは明ばん先媒染の方法を紹介しますが、他にも次のような媒染の方法があります。詳しくは『草木染ハンドブック』で!

○おはぐる媒染: ウールの重さに対して2%の酒石英を湯に入れ加熱、溶かしてから「おはぐる液(さびた釘を食酢と水で煮詰めたもの)」30%を加え、明ばんと同様の方法で先媒染してから染色します。

○無媒染: 媒染をしない方法で、ウールであればこの方法でもよく染まります。前処理したウール(原毛や毛糸)を抽出した染料液に入れて染色します。



③ ②を水4.5Lに入れ、温度を40℃に調整して媒染液の完成



④ 前処理した原毛を③に入れ、半回転くらい軽く動かす。フタをして弱火で加熱

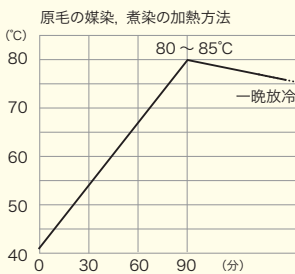


⑤ 10分間隔で軽くかき混ぜ、温度を測る。途中で2~3回上下を返す。80~85℃まで加熱したら火を止め、フタをしたまま放冷(一晚放置)



⑥ 冷ました原毛をザルに入れたまま、約40℃の湯で2回洗い、ザルにあげて30秒脱水。すぐ染色しないときは乾燥させて保存

★ウール染めは加熱に注意!!



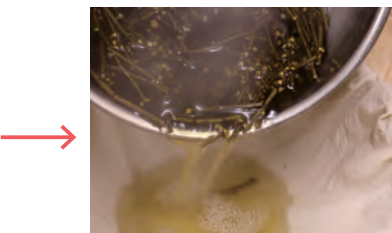
ウール染めでは先媒染、染料による染色とともに約40℃から弱火で一定のペースで加熱し、80~85℃まで温度を上げてから自然に冷やします(放冷)。急激に温度を上げたり、冷やしたりするとフェルト化が起きます。

←媒染液・染料液が約5Lの場合、温度上昇は10分あたり6~10℃目安。ウールは10分おきに動かす

STEP③ 草木染にチャレンジ!(※ウメの場合)

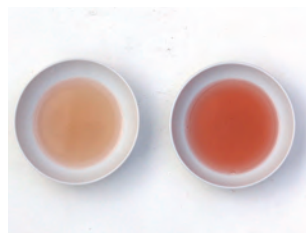


① 原毛20gに対して3倍となるウメの枝60gを剪定し、細かく切る。水3Lに入れて加熱し、沸騰後15分煮出す



② ①を布でこして1番液、残った枝から同じ手順で2番液を抽出する。赤みをより出すため、染料液を一晚置く

※ここではウメを例にしていますが、ほかの染料でも手順は同じです。煮出す時間や色など、詳しくはハンドブックをご参照ください



③ 一晚放置した1番液(左)と2番液(右)。両者を合わせて水を加えて5Lの染料液とする



④ 先媒染した原毛は、ザルに入れたまま、約40℃の染料液に入れる。軽く半回転動かしてから、フタをして弱火で加熱



⑤ 10分ごとに軽く動かし、温度を測る。途中で2~3回上下を返す。80~85℃まで加熱したら、火を止め、フタをしたまま放冷(一晚放置)



⑥ 一晚放置した原毛



⑦ 放冷した原毛は、ザルに入れたまま約40℃の湯で3回洗い、30秒脱水して乾燥



⑧ 乾燥した原毛。赤みのある薄柿